PTA新聞

ふくおかけん

発行所／
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50
福岡県吉塚合同庁舎5階
福岡県PTA連合会
TEL092-643-7766 FAX092-643-7767
編集発行人／永原　譲太郎

県P連ホームページアドレス http://www.fukuokakenpta.gr.jp　県P連電子メールアドレス info@fukuokakenpta.gr.jp

〝新〟家庭教育宣言　実践報告会

今、子どもたちのために家庭から出来ることを―。福岡県ＰＴＡ連合会（県Ｐ）の〝新〟家庭教育宣言実践報告会は2月16日午後、福岡市中央区天神4丁目の都久志会館で開催されました。県内4つのＰＴＡから、鍛えてほめて育てることや親子の会話の大切さなどの報告がありました。

親子で会話、鍛えてほめて、家庭学習も充実…

〝新〟家庭教育宣言は、家庭において親子で相談しながら努力目標を宣言し、その実現に向けて家族ぐるみで取り組むもので平成17年度に12校でスタート。令和元年度は646校が取り組み、宣言率は99％でした。

冒頭、永原譲太郎県Ｐ会長は「国では子どもたちにタブレット端末を持たせようという方針で進めている。子どもたちに正しくインターネットと向き合うかを身に付けていただくようシフトしなければならない」とあいさつ。

マルチメディア振興センターｅ―ネットキャラバンの森園秀人さんが「インターネットの安心安全な使い方～子どもたちをネットの被害者にも加害者にもさせないために～」と題して講演。映像も交えてスマートフォンのフィルタリングなどについても具体的にアドバイスしました。

実践報告では▼大野城市立大野小学校父母教師会が「さわやかなあいさつ、すてきです!!～学校・地域・家庭が一つになって取り組む『あいさつ運動』の推進～」▼みやこ町立伊良原小学校ＰＴＡ・伊良原中学校ＰＴＡが「家庭学習の充実～小中一貫教育校の取り組み～」▼豊前市立角田（すだ）小学校ＰＴＡが「鍛えてほめて伸びる角田っ子の育成～家庭・学校・地域をつなぐＰＴＡの取り組み～」▼苅田町立南原小学校ＰＴＡが「家庭で話そう　つくろう　親子の時間～親子で一緒に頑張ろう！活用力アップノートの取り組み～」―と、それぞれのテーマで報告がありました。

近藤真紀・福岡県教育庁主幹社会教育主事は「子どもたちが家庭、地域社会などに役立っている、認められているという自己有用感を高められる環境が大切」とアドバイスしました。

同会館の建て替えで、来年からは会場が変わります。

大野城市立大野小父母教師会

無理なく実践できること、子どもたちが楽しく参加できる取り組みとして、あいさつが気持ちよくできた子に「あいさつカード」を渡す「あいさつ運動」に取り組んだ。最初は、校長が登下校時に校門などで、あいさつが気持ちよくできた子にカードを渡すことからスタート。次第に地域の皆さんも参加。場所も校区内に広がった。あいさつに相手の名前を加えたり、高いレベルのあいさつのできる子には「あいさつ名人」カードも渡した。

地域の顔見知りも増えてよかった。

みやこ町立伊良原小・伊良原中ＰＴＡ

伊良原ダム建設で地域の過疎化・高齢化が進み平成28年に小中一貫教育校・みやこ伊良原学園になった。児童・生徒は28人。力を入れている家庭学習の充実は記録用紙に目標など書き込んで担任の教師に返し、学習法などの指導・支援に生かすという方法。小規模校のため、一人一人に応じたきめ細かな指導ができるという。

課題としては、校区外から通っている児童・生徒が多く保護者とのつながりが薄く、もっと悩みを共有する必要がある、としている。

豊前市立角田小ＰＴＡ

年3回の「親子の約束カード週間」を行い基本的生活習慣の確立などに親子で一緒に取り組んだ。メディアの視聴時間・ゲームやスマホ使用への対応については、「eネット安心講座」も開き、親子間の使用ルールの解釈の食い違いなどについて取り上げた。親子でのルール作りなど、さらに深めていく予定。

除草作業や小中合同運動会、餅つき大会などＰＴＡ行事については、郷土に愛着を持ち地域との連携・協力の取り組みを通して地域の力を学ぶことができた。

苅田町立南原小ＰＴＡ

自ら興味があることを見つけて学ぶ「調べ学習」に力を入れるため自主学習「活用力アップノート」に取り組んだ。毎週末に家庭で「活用力アップノートチャレンジシート」を仕上げ、月曜日に提出する仕組み。「世界の国旗」や「旧暦の月名」「どうしたら早く走れるか」など、さまざまな工夫があった。本を活用しようと学級には学級文庫を設けた。保護者からは「毎日、何にしようかと悩みながら、大人でも思いつかないような内容の課題を一生懸命にしているのを見るのは楽しい」などの声が届いた。

リモート会議も

コロナウイルス拡散防止対応で

新しい試み「良かった」

福岡県ＰＴＡ連合会（県Ｐ）は、新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、閉鎖された屋内における集会等の危険性が指摘されたため、その拡散防止対策として、開催予定の会議などを中止しました。

2月29日に予定されていた第3回市・町・村代表者会議は、開催の4日前に、急きょＦＡＸで100人を超える参加予定者に連絡。会議後の情報交換会も中止しました。

2月末から4月中旬に開催が予定されていた母親代表者会議、総務委員会、家庭教育委員会、九Ｐ福岡県大会企画委員会・実行委員会総会、それに朝倉市のピーポート甘木で予定されていたＰＴＡ役員研修会も中止となりました。

3月16日の理事会は、会議会場に集合するのではなく、理事全員でライングループを結び、ビデオ通話と音声通話機能を活用してリモート会議を試行しました。初めての試みで、不慣れなことと電波状況の具合など改良点はありますが、全く新しいスタイルの会議が開催でき、参加した役員・理事とも「良かった」との感想でした。

九州のＰＴＡ関係では、3月13日の三Ｐ協会長・事務局長会議を延期。日本ＰＴＡ関係では、中学2年生を対象とした国内研修が中止になりました。これは、沖縄県（本島、渡嘉敷島）に全国から選抜された約100人が集う1週間の研修事業で、県Ｐからは2人が参加予定でした。

3月27日に東京で開催される予定だった、いじめ防止標語コンテストの全国表彰式も中止となりました。

県Ｐ事務局では「緊急事態宣言が発令され、福岡県では、各学校が休校したり、イベントや大会の中止や延期などが続いています。一刻も早く平穏な日常に戻ることを心から願っています」と話しています。

北九州

学校・家庭・地域の懸け橋に

●直方市立直方西小

直方西小学校では「かしこく・やさしく・たくましい子どもの育成」が教育目標に掲げられ、ＰＴＡとして学校と協力しながら活動を行っています。

「かしこく」ですが、活動の一つのバザーの売上金を利用し、ｉＰａｄを学校に寄贈し活用していただくようにしました。２学期は、ＰＴＡによる放課後学習を実施、全体の２割を超える児童が参加し、自己学習をしました。

「やさしく」は、保護者によるブラックシアターの紙芝居などを行っています。

「たくましく」は、家庭学習パワーアップ週間を活用し、各家庭、ＰＴＡ役員ともに、テレビを消して学習させるなどで協力してきました。

最後に、西小みまもり隊を結成、全家庭に西小みまもり隊の腕章配布、玄関先で１分でも子どもたちを見守っていただきたいと要請し、また、地域自治会への協力要請を行いました。

その他にも夏休み親子料理教室＝**写真**＝の開催など、ＰＴＡとして、子どもたちが健やかに成長できるよう、学校、家庭、地域の懸け橋になる活動をしていきたいと考えています。

（直方西小ＰＴＡ会長　光安　正幸）

筑豊

心耕す「花いっぱい運動」

●飯塚市立伊岐須小

新型コロナウイルスの影響により、開式も危ぶまれた今年の卒業式でしたが、無事133人の卒業生を送り出すことができました。例年この式場を美しく飾るのが、色とりどりの花々です。伊岐須小ＰＴＡ文教委員会が中心となって行われる、「花いっぱい運動」の取り組みによるものです。

今年は、1月18日に行われ、小雨まじりの中、たくさんの保護者や子どもたち、教職員の参加を得て、約２００株の花苗をプランターに移植しました＝**写真**。

この取り組みは10年以上続くもので、1月の寒い時期にも関わらわず、たくさんの有志が集まり、大人と子どもが和気あいあいとした雰囲気の中で行われます。私たち保護者は直接、子どもたちの教育に関わる機会は少ないと思われますが、この「花いっぱい運動」を通して、少しでも子どもたちの心を耕すことができたらと願って活動を続けています。

この花々は、4月には入学式の式場を飾ります。今年も１００人近くの新1年生を迎えます。伊岐須小学校との出合いが豊かなものであることを心から願って、今後も子どもたちの情操を豊かに養う活動を続けていきたいと思います。

（伊岐須小ＰＴＡ会長　上田　岳義）

京築

地域に根付く伝統の餅つき

●豊前市立角田小

私が小学生の頃から続くお餅つき。角田（すだ）小学校では、児童たちが楽しみにしている餅つきを40年以上続けています。

この行事はＰＴＡ主催で、青少年育成市民会議角田支部に協力していただき行っており、児童と日頃からお世話になっている地域の方々とのふれあいの場となっています。

２カ月前から当日に向けて準備が始まりますが、餅つき用の道具も毎年使っているため傷みが激しく、特に、きねの手入れに苦慮しています。準備は非常に大変ですが、児童の楽しみを奪いたくないので、慣れない作業を役員で分担して行います。

当日は、保護者に早めに来てもらい役割分担を決め、餅つきの開始です。保護者も最初は戸惑いながらの作業ですが、役割分担通り作業を進めます。

地域の方々には毎年参加していただいている方もおられ、保護者と一緒に作業をしたり、児童たちと笑顔で会話をしたりするなどそれぞれ楽しく過ごしています。特に児童は保護者の言うことを聞かず、笑顔で楽しんでいます＝**写真**。

地域に根付いている行事であり、児童の成長にもつながるため、今後も継続していきます。

（角田小ＰＴＡ会長　髙木　伸一）

家庭、学校、地域での エピソードも盛り込んで

三行詩コンクール募集

「家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ」を課題にした日本ＰＴＡ全国協議会（日Ｐ）主催の令和２年度の三行詩コンクール（後援・文部科学省、厚生労働省）の募集が始まりました。締め切りは6月18日。学校単位で、福岡県ＰＴＡ連合会（県Ｐ）へ送ってください。

三行詩とは、三行程度の短文の意で必ずしも三行ではありません。俳句のようなものでも可。小学生、中学生と一般（保護者や教職員など）が対象になっています。

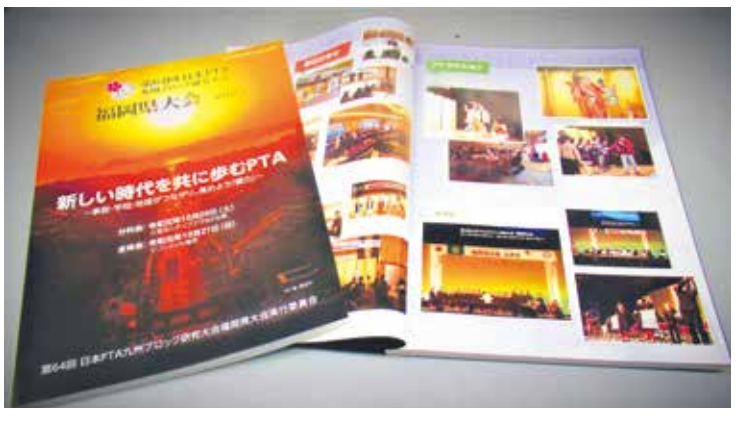
家族の会話やコミュニケーションから生まれるきずなや家庭のルール、子どもたちの基本的な生活習慣づくりなどの家庭教育、一人ひとりの命の大切さをテーマにしたものなどが募集対象。「家庭での日常のできごとや学校や地域でのエピソードを盛り込んで家族で話し合って作ってください」と呼び掛けています。

応募についての問い合わせは県Ｐ事務局＝０９２（６４３）７７６６＝へ。

提言・質疑なども収録

日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会福岡県大会

記録誌を刊行、配布



「新しい時代を共に歩むＰＴＡ～家庭・学校・地域がつながり、高めよう『親力』～」を大会スローガンに昨年10月26日、27日に、マリンメッセ福岡（福岡市博多区）などを会場に開催された第64回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会福岡県大会（九Ｐ県大会）の記録誌＝**写真**＝が完成、県Ｐ管内の小中学校など関係先に配られました。

記録誌はＡ４判１４５ページ。１０００部発行。表紙は宮地嶽神社（福津市）境内から沈む夕日を写した「光の道」。各分科会の提言や質疑応答、大会の運営機構など詳細に収録。「ＳＮＳでの便利性もあるが最終は人と人との生のつながりであることを実感した」「核家族化、夫婦共働き家庭の増加、災害の増加、今こそ学校と地域の連携が必要だと思います」「このような研究大会は一定の役割を終えた。派手なものや華美なものはふさわしくありません」など分科会ごとに寄せられたアンケートに書かれた意見・感想も掲載しています。

松尾和昭・大会実行委員長は「皆さんで作り上げた九Ｐ県大会。その記録がまとまりました。これからのＰＴＡの研究大会や単位ＰＴＡ運営などの参考にしていただきたい」と話しています。

南筑後

みんなで「ほのぼのセール」

●みやま市立瀬高中

「あー私が欲しかったのがない！」。そんな声がします。これは、瀬高中学校の恒例行事である、ＰＴＡ主催の「ほのぼのセール」での一場面です。クラス対抗の合唱コンクールの後に開催されるのですが、われ先にバザーに押しかける保護者の方や腹をすかしてお目当ての物を露店に買いに来る生徒や子どもたちで大変にぎわいます＝**写真**。

アツアツのソーセージや巨大鉄板で一気に焼き上げる焼きそばもみんな笑顔で食べてくれます。運営は、厚生委員会が中心となり行っていますが、ＰＴＡのＯＢの方や保護者有志および地域の方にもご助力願い、会場設営や世話方など、さまざまなところで携わっていただいています。

今年度の開催は、晴天に恵まれ多数の方の来場がありました。来場された方からも、「子どもや孫が学校に通っているうちは、また来たい。がんばってください。」と激励の言葉をいただき、ＰＴＡの活動が着実に地域に根付いていることが実感できる瞬間でした。

地域の方々に支えられＰＴＡ活動ができていることを胸に、今後も一歩前進した活動を展開したいと思います。

（瀬高中ＰＴＡ副会長　境　真秋）

北筑後

自分の命を守る着衣水体験

●朝倉市立蜷城小

蜷城（ひなしろ）小学校は、筑後平野の北東部、朝倉市の最南端に位置し、筑後川、佐田川、桂川に囲まれ、水に恵まれている半面、水に悩まされることが多い校区です。

本校では、昭和28年の大洪水と、平成24年、29年の九州北部豪雨で水害を体験したことから、毎年夏休み前に、子どもたちが「自分で自分の命を守る」着衣水体験を行っています＝**写真**。これは、水の事故防止と対応能力を高めることが目的です。

数年前までは、ＰＴＡ会員と地元の消防団・地域各種団体の協力を得て、実際の川での体験を実施していました。しかし、近年は、水害対策による河川の増幅工事に伴い、衛生面を考慮して、場所を学校のプールに変更しました。

日本赤十字社から講師を派遣してもらい、細かくていねいに、楽しく指導を受けています。また、保護者も水中での救助法や、水難事故に遭遇した際の救急法などを指導していただき、貴重な体験型の講義を行っています。

今後は、全児童と保護者全員が参加できるよう日程を考慮し、子どもたちがさらに安心かつ安全で有意義な学校生活を送れるようにＰＴＡ全体で取り組んでまいります。

（蜷城小ＰＴＡ会長　秋吉　秀二）

福　岡

タグラグビーで心ひとつ

●春日市立春日野小

２月８日土曜日。今年で４回目となる親（おや）児（じ）の会、ＰＴＡ共同企画の「タグラグビー」が春日野小学校の体育館で開催されました。

タグラグビーは、腰につけたタグを取られないように走り回るラグビーの鬼ごっこ。春日野小学校では、授業やクラブ活動に取り入れられており、子どもたちに親しまれているスポーツです。日本ラグビーフットボール協会指導員の皆さんのご指導のもと、１年生から６年生までの子どもたち、約50人がタグラグビー体験をしました＝**写真**。

まずは、ウオーミングアップをしながらのチームワーク作り。体を動かし始めると次第に子どもたちの笑顔が弾けます。人が足りないグループには親児の助っ人が加わり、さらに、にぎやかさを増していきました。

今年は初めて炊き出しを行い、昼食は皆でカレーを食べました。早朝から約１００人分調理したカレーも、あっという間に完食。おなかいっぱいになった午後からは、試合中心で親児たちのエンジンも全開です。大人が全力で楽しむ姿は、子どもたちの心を豊かに育んでくれるものと思います。

令和２年度、春日野小学校は創立30周年を迎えます。歴史をつないでいきます。

（春日野小ＰＴＡ区Ｐ担当　村上　聖子）

千里眼☆★地獄耳

（記事募集中＝メールで事務局へどうぞ）

現在、世界を大混乱に陥らせている新型コロナウイルス感染症。このウイルスによってさまざまな問題が発生している。このウイルスの影響で明治時代に学制が公布されて１４８年間で初の小中高校や特別支援学校の一斉臨時休校が２月27日の夜に安倍首相から要請された。児童や生徒、保護者にはあまりにも唐突でショッキングな要請だった。

卒業式や修了式など伝統的な学校行事がなくなったり、縮小されたりと児童や生徒、保護者も戸惑いを隠せない状況だ。問題はそれだけでなく急な休みに対しての児童や生徒のストレス増加、仕事などを急に休み、家で子どもの面倒をみることになった保護者の経済への不安など臨時休校による連鎖的な問題が山のようにある。

しかし、政府が感染拡大を懸念し早期収束を考え、要請したことは理解できる。誰にもこの先どうなるか分からない状況で今できることを考えなくてはならないと思う。まず、保護者として子どもたちに何のための臨時休校なのかをしっかりと伝えて、無駄な外出を避けさせること。それから、コロナウイルスの主な感染経路は飛沫感染（せきやくしゃみのしぶきによるもの）と接触感染（皮膚や粘膜の間接的や直接的な接触によるもの）と言われているので政府などが呼びかけている予防対策を子どもたちに理解させ実施させること。当たり前のことであるがそれらができれば、感染は収束をするはずだ。

緊急事態宣言も発令された。未来をつくる子どもたちを守り、育てる保護者でありたいと切に願う。

（Ｙ）

福岡県ＰＴＡ連合会　小・中学生総合保障制度のお知らせ　安心してお子様をご養育いただくために

「小・中学生総合保障制度（こども総合保険）」

お子様の「ケガ」「育英費用」やご家族の「個人賠償責任」などを補償します。

（学校内のケガの場合、「独立行政法人　日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度」の給付とは関係なく補償されます。）

※保障制度の詳細につきましては、取扱代理店にお問い合わせください。

●制度に関するお問合せ先：取扱代理店　株式会社コーリン（福岡県ＰＴＡ連合会保障制度事務局）

ＴＥＬ：０１２０－２２８－５５３（通話料無料）（受付時間：平日午前９時～午後５時　土・日・祝日、年末年始を除く）

●制度引受保険会社：ＡＩＧ損害保険株式会社　東京海上日動火災保険株式会社　損害保険ジャパン日本興亜株式会社　三井住友海上火災保険株式会社

2020年５月現在の内容です。

山際千津枝の 食べるってなあに >97<

サンドイッチの年

マングースの独り言

この原稿を書き始めた日、新聞に新型コロナ「パンデミック」の文字が躍っていました。地震や台風などの災害に続いて今度は感染症。その後、緊急事態宣言も発令されました。とんでもない時代に生まれあわせたような気もしますが、そうなのでしょうか。

医師・奥田昌子さんの著書『日本人と病気と食の歴史』を読みました。

日本には古代から人が暮らしていましたが、それはずっと寄生虫やさまざまな感染症との戦いであったようです。他国と人や文化の交流があるときに、そこに必ず感染症も侵入があったのです。大陸から稲作がもたらされると同時に結核が…。６世紀、広範囲には仏教の伝来と共に天然痘が持ち込まれ、つい最近まで日本人を苦しめました。ちなみに江戸時代にもインフルエンザは猛威を振るっています。１８５８年、日米修好通商条約と前後してコレラの上陸。決して怖がらせようとこんなことを書いているわけではありません…。こういう大変な現実の中で私たちの祖先は生き残って私たちに命をつないでいるのです。むやみに恐れるのではなく、決められたことは守り、一人一人できることはやって予防に努めましょう。

学校に行けなかったり、行事が中止になったり、さまざま制約はありますが、心は朗らかに自由でいたいですね。少し時間ができたので、見たかった映画をＤＶＤで観て、積んでおいた本も読もうと…。甘夏みかんが出てきたのでマーマレードもまとめて作りましょう。

こういう時期は各国政府のリーダーシップも求められますが、私たちの生き方も問われるのです。偉そうですみません。

時々思い出す映画のセリフがあります。１９８８年製作のフランス映画「サンドイッチの年」。ＤＶＤ化はされていませんがYouTubeで観ることができます。戦争で両親を失い、さまざまな辛さの中で泣いている15歳の少年。いつもは頑固で皮肉屋のおじさんが声をかけます。「大人は夜中に泣いたりしないと思ってたら、それは間違いさ。涙も人を作るんだ。今年は辛いこともあったなー。サンドイッチの年さ。分厚いパンの間の薄いハムには辛子がいっぱいで涙も出るさ。それでも全部食べ尽くさなければならんのさ。次はフカフカの白いパンが待っているから。お前は大人になった」

こういう時にこそ大人の行動を取りたいものです。この騒ぎが収まる頃、子どもたちも少しだけ大人になっているかもしれませんね。

全国賞に柴さん（苅田小）、上江さん（平野中）

いじめ防止標語コンテスト

せいかくは みんなちがって おもしろい それをわらうな からかうな

偽ってる『平気なフリ』と『してないフリ』

福岡県ＰＴＡ連合会（県Ｐ）など共催の令和元年度「いじめ防止標語コンテスト」の入賞者が発表されました。県Ｐ管内からは全国賞に、苅田町立苅田小学校３年の柴唯翔さんの「せいかくは　みんなちがって　おもしろい　それをわらうな　からかうな」と大野城市立平野中学校１年の上江歩実花さんの「偽ってる『平気なフリ』と『してないフリ』」が選ばれました。３月26日、東京都内のホテルで予定されていた表彰式は新型コロナウイルスの予防のために中止されました。

柴唯翔さん

上江歩実花さん

柴さんは「自分の性格が友だちとちがっていても、それがおかしいことではないと思ってこの標語をつくりました」と感想。

上江さんは『傍観者』にも注目して作りました。何も知らないふりをしてやり過ごしてはいけない。人権を演技で奪われないような世の中になってほしい。過去の受賞作を見てすごく共感したので、自分の標語を読んで共感してくれる人がいるとうれしい」と話しています。

その他の県Ｐ管内の入賞者は次の通りです。（学年は３月現在、敬称略）

〈小学生の部　優秀賞〉苅田町立南原小学校４年・印口夏美▽みやこ町立伊良原小学校５年・松野綾

〈同ＰＴＡ推薦賞〉糸島市立引津小学校３年・髙鍋さくら▽大牟田市立上内小学校１年・いとうくうや

〈中学生の部　優秀賞〉太宰府市立太宰府東中学校１年・西村海桜、飯干咲良

〈同ＰＴＡ推薦賞〉古賀市立古賀中学校２年・中西美沙希▽八女市立南中学校２年・樺島裕羅

新型コロナウイルスの相談ダイヤル緊急開設

福岡県ＰＴＡ連合会（県Ｐ）は、保護者・学校関係者に、新型コロナウイルス感染症に関しての心配・不安が生じていることから８月31日まで無料の新型コロナウイルス 相談ダイヤルを開設しています。県Ｐの小・中学生総合保障制度などを行っているコーリンや、健康支援サービスなどを行っているティーペックの協力・提供による開設で、番号は０１２０－０８５－１３３。経験豊かな看護師や保健師が24時間・年中無休で新型コロナウイルスに関する幅広いご相談に応じています。

県Ｐでは「大切なお子さまやご家族の安全安心のためにご活用ください」としています。

広報委員のひとりごと

合宿所。その呼び名がぴったりのわが家。休みとあらば息子の友人たちが集まり、家事、炊事に追われます。うちは一人っ子核家族。なのに、何組もの布団がクローゼットを、でかい図体がリビングを占領。空間までもが男臭に占領されているけれど、親がいる一階でくつろぐ姿は微笑ましくて、ニヤける私。いろんな話をしてくれる子どもたち。「役員」としてではなく「母ちゃん」として接してきたことが、子どもたちが心を開いてくれるきっかけになったのではないかと思う今日この頃。大変だけど「合宿所」も悪くないなぁ。（Ｗ）